

「自分」と「他者」の自由

《中学生の部 金賞》

落合中学校三年 林 聡真

「自分らしき」とは、「自分が思うことを大切にする」という事だと思う。ある時、学級内で仕事を決める機会があった。僕には、やりたい仕事があったが、ある友達も、同じ仕事をやりたいと声をあげた。話し合いをして、友達が僕に譲ってくれることになり、僕がその仕事を務めることになった。こうなったのは、自分がやりたいという思いを大切にして行動に移したからである。でも、ここで大切なのは、やりたい気持ちを抑えた人がいるということだ。今回は、譲ってくれることになったが、それを強要することがあってはならないと思う。

自分らしく生きる、つまり、自分が思うことを大切にして生きていく上で、他者の自由を侵害してはならない。また、同じく自分の自由を侵害されないようにするために、社会のルールがあるのだと思う。一人一人が、社会のルールについてしっかりと理解し、それを守ることが、一人一人の自由が尊重されるのだと思う。その上で、のびのびと生きることが「幸せ」につながると僕は思う。

私らしく生きていく

《中学生の部 銀賞》

祇園中学校二年 中本 絢菜

私は中一の時不登校でした。しかし、ある日私の運命を変える出来事があつたのです。

小学校の頃いじめを受けていたため、人を信用することが怖くなりました。また、人とコミュニケーションを取ることが苦手だったのも相まって学校に登校できなくなりました。しかし、ある日勇気を振り絞って久しぶりに学校に行ってみると、当時の担任の先生がこんな言葉をかけてくれたのです。「先生はあんたの味方じゃけん。自分のペースで頑張ればいいけんね。」私はこの時、胸の奥の何かが温まっていくのと同時に、生徒に寄り添うつてこういふことなんだと確かに感じました。次の日から私は、将来あんな風な先生になりたいと思ひ、毎日学校に登校するようになりました。先生になつて学校が辛くて悩んでいる生徒の力になりたいと思つたからです。

このような経験から、本当の意味で生徒に寄り添える先生になるには、一人ひとりの個性や思いを尊重することが大切だと思ひました。そして、悩んでいる生徒の力になれたその瞬間、私は幸せになつていふと思ひます。

ほんの少しの勇気で

《中学生の部 銅賞》

戸坂中学校二年 三原 沙和

「自分らしく」というのは簡単なようでとても難しいことだと思う。例えば、自分の考えと周りの考えが違う時、いつも「自分らしく」いることは難しい。

そういった、周りと同じではないといけないという意識が、いじめや差別を生み出しているんだと思う。実際に、悪ふざけが過ぎていじめのような状態になってしまふことだってある。

それは「自分らしさ」を失っているから起こることだと思う。「やめなよ」の一言を言うことが、みんなとても怖い。だからみんな、少しずつ自分を失っていく。私は「自分らしく」というのは勇気を持つことだと思う。ほんの少しの勇気で、「やめなよ」が言えたなら、その思いは周りの人に響くはずだ。一人一人が全く同じことを思うわけではない。みんな違って当たり前だ。

だからこそ、自分を失わないために、ほんの少しの勇気が大切だと思う。自分の気持ちで行動できれば、「自分らしく」幸せに生きることができるはずだ。

自分らしくと自分勝手

《中学生の部 銅賞》

安佐中学校三年 日野 綾音

私は自分らしく幸せに生きるということは周りに気を配りながら生きることだ
と思う。

でも周りに気を配りながらなんて自分らしくないと考える人もいるだろう。私も最近まではそう考えていたが、ある日電車に乗っていると大声で話している二人組がいた。迷惑だなと思っていると席に座っていた女性が注意をしてくれた。だがその二人は、

「個人の自由じゃないですか。」

と言った。私は一瞬間違っていないのかもしれないと思った。スマホで調べると自分らしさとは他者にとられず自分の性格を尊重している状態だとでてくる。私は他者が口出しできる権利はないと思った。だが女性は、

「貴方達のは自由じゃなくて自分勝手。貴方達がそんなことしている間に周りの自由は奪われているんですよ。」

と言った。私はその言葉で、自分らしさばかり考えていると周りの人が自分らしく生きれなくなるのだと学んだ。

だから私は周りに気を配りながら生きること自分らしく生きられるのだと思う。

「らしさ」と幸せ

《中学生の部 入選》

安佐中学校一年 椿 萌衣

私は今、幸せに生きている。なぜなら、部活動も楽しく、充実した学校生活を送ることができているからだ。

私が幸せに生きられるのは、自分らしさをまわりの人と比べないようにしているからだ。以前、自分とまわりの人と比べて、私はみんなよりできていないと思っておちこんでしまったことがあった。そんな時、道徳の時間に自分らしさとはどんなことか考える時間があった。その時、その人らしさは個性であり、人と比べるものではないということが分かった。その一時間で、私は、自分とまわりの人とを比べて、おちこんでいたら、自分らしく生きていけないということに気付いた。自分が自分らしく生きられるのは、とても幸せなことなのだというにも気付いた。

それと同時に、自分らしくいるには、まわりの人の存在も大きいことも分かった。私の自分らしさを受け入れてくれる友達や家族、先生たちがいるから、私が自分らしくいられるのだと思う。だからまわりの人に感謝しらしさを認め合いながら幸せな生活を築きたい。

自分ができること

《中学生の部 入選》

東原中学校一年 永井 綺乃

私は心臓の病気を持っています。そのせいでクラスの子達よりもできることが限られて「病気さえなければ」と何度も思いました。でも今ではそんなことを思うことは無くなりました。

それは私が小学六年生の時の話です。私が近所の子供の面倒を見ていた時にその子の親が

「綺乃ちゃんは子供の面倒を見たりするのがうまいよね。」

と言ってくれました。その時に私は運動はできないけど子供の面倒を見たりその子を楽しませたりすることはできるんだ、と思いました。なのでその時から、何事もポジティブに考えられるようになりました。例えば、学校の体育でみんなと一緒に走れず見学をしていた時も私はみんなと一緒に走ったりはできないけどここからみんなを応援することはできる、と思えるようになりました。

私はネガティブとポジティブは考え次第で変わるということを学びました。なのでこれからはポジティブに考えたいです。

自分の価値観に合う選択を！

《中学生の部 入選》

広島中等教育学校一年 田中 夢芽

自分らしく幸せに生きるには、自分の価値観や性格に合う選択や意思表示ができればならない。私がこう考えるきっかけになったのは入学説明会の制服採寸での出来事だ。私の前に並んでいた女子が母親にスラックスとネクタイの購入を懇願していたのだ。私は女子は皆当然スカートとリボンを購入するものと思っていた。だが、彼女の他にもスカートとスラックスどちらにするか悩んでいる人、リボンは選ばずネクタイのみ購入している人さまざまいた。私は固定観念にとらわれていた自分を恥じた。と同時に、彼女達は自分らしさを持って生きているんだなと感心もした。

今、世の中は、多種多様な考え方が受け入れられるようになり、性別によって選択肢を狭めたり、意に反する選択をする必要はなくなりつつある。私はこの日を境に、固定概念にとらわれることなく、自分の価値観に合う選択をしていこうと決めた。それが自分らしく幸せに生きていく一歩であると思うから。

初めは自分らしさから

《中学生の部 入選》

広島修道大学ひろしま協創中学校一年 梶山 桃子

私の、自分らしさは何だろうと考えたときに、長所や短所は思い浮かびますが、「自分らしさ」は自分ではよく分かりません。ですが、いつも「自分らしく」生活できているかというと、そうではない気がします。

中学校に入学して初めて出会う人達の中で必要以上に周りに合わせていたためか、気持ちが疲れていました。それを変えようと、最近思い切って、友達に合わせるのではなく、自分の時間や気持ちを優先してみました。すると、不思議なことに、学校に行くことが以前よりも楽しく思えてきて、友達とも、より自然に話せるようになりました。自分に素直になることは、自分だけではなく、接する人にもよい影響を与えるような気がします。

これからも、自分らしく過ごすために、まず自分を大切にすることを心がけます。それができれば、周りの人のことも尊重できると思います。一人一人の「らしさ」を認め合えるとすばらしいと思います。

多様

《中学生の部 入選》

幟町中学校二年 西尾 凜香

私の考える『自分らしく幸せに生きる』は自分の個性や性格を認めてもらうことだと思えます。私は『自分らしく』とは自分にしかないものを生かすことと考え、『幸せ』とは自分を認めてくれることだと考えました。

個性や性格は多様です。自分と違う個性や性格を持つている人を見ると、「この人は私とは違う」と判断してしまう人もいます。自分と考え方が違ったり、見た目が違うとそれがきっかけでいじめが起ることもあります。一人一人の違いを認め、理解する人が増えることでいじめは必ず減ると思います。しかし今もいじめが起っているのも、多様な個性や性格を理解していない人がいるのも事実です。個性や性格を理解されていない人は『自分らしく』生きることが難しくなってしまう。自分らしく生きることができないと『幸せ』に生きることができません。

これから先出会う人の中には自分と違うものを持った人と出会うかもしれない。多様な個性や性格を認めることで、自分らしく幸せに生きることができると思えます。

自分らしく生きるために

《中学生の部 入選》

段原中学校二年 上村 若奈

私にとって、「自分らしく幸せに生きる」ということは好きな事ややりたいこと、自分の考えなどを大切にすることだと思う。

自分らしさをおさえ、周りの人たちに合わせてばかりいると、最終的に自分で選んでおけば良かったと思うたり、自分には合っていないと感じ、ストレスがたまってしまうこともあると思う。私もよく迷ってしまうことがあるが、自分がやりたいことは何なのかよく考えて選ぶようにすると後悔しないことがよくある。

しかし、自分の意思を持つのは良いが、それを人におしつけるのは自分らしく幸せに生きることではないと思う。人それぞれ個性があつて、考える事も違う。だからこそ、それを理解し合い、受けとめていくことで、みんなが「自分らしく」幸せに生きていくことにつながると思う。

私が幸せと感じる時は、家族や友達と笑い合ったりしているときだ。それができるように、周りの人を受け入れ、尊重し合っていきたいと思う。

自分も周りも大切に

《中学生の部 入選》

観音中学校二年 宮村 果奈

私にとって自分らしく幸せに生きるということとは、自分に対してうそをつかないということだと思います。

最初に、どうして自分に対してうそをついてしまうのだろうと考えた時、自分を良く見せたい、変な人に思われたくないなどが思い浮かびます。ですがそれらはすべて他人からの評価を気にしている考えになります。そして自分の本当にやりたいこと好きなことが、見えなくなってしまう自分が出来上がります。それは、自分らしく自分の考えで生きていると言えるのでしょうか。私は、そう思いません。なぜなら本当に好きなものを好きと言って、自分の考えで、物事を言うことが、自分を作ることだと思うからです。

ですが、自分のことだけを考えて生きていても、周りの人は自分のために動いたり、考えたりしてくれません。自分の好きなものを大切にすることと同じように周りの人も大切にしなければいけないと私は思います。

私は、自分にうそをつかないということをお大切に幸せに生きていきたいです。

そのままのあなたで

《中学生の部 入選》

口田中学校二年 東城 優姫

「そのままの優姫が大好きだよ。」

この言葉は、母の温かい愛と優しさの込められた大切な言葉だ。

私は、幼い頃からのんびりとした性格で、人に自分の気持ちを上手に伝える事が苦手だった。小学生になると、『このままじゃダメだ、もつと頑張らない』と思いい、学校で自分を演じるようになってしまった。自分を演じ続ける事はとても辛かった。そんな私の目をまっすぐ見つめて母が言った言葉が、

「そのままの優姫が大好きだよ。」

だ。その言葉は私の心に深く響き、張り詰めていた気持ちをほどこしてくれた。

私が考える「自分らしさ」とは、長所や短所を含む自分の性格などの事だ。自分の「自分らしさ」に向き合う事、他の人の「自分らしさ」を尊重する事ができる人が増えれば、温かい世界に少し近付くと思う。私は母のように、他の人に

「そのままのあなたで良いんだよ。」
と言える人になりたい。

自分らしさを見つける

《中学生の部 入選》

大州中学校三年 古賀 翔己

幸せに生きるとはどういうことだろう。僕は、一人一人意見が言えるようになることがみんなが幸せに生きていける社会をつくるための第一歩だと思う。なぜなら、自分の思いを表に出さず過ごすことは、自分らしく生きていないと思うからだ。

今までの僕は、あまり意見を言わない性格だった。しかし、中学二年生のころになった体育祭実行委員の経験がすごく印象的で、三年生になっても再挑戦した。体育祭実行委員になったことによりみんなをまとめ、指示を出す立場になった。昔は苦手だと思っていたことがいざやってみると、苦手から楽しいという気持ちに変化した。思いを伝えることで僕の自分らしさを見つけることができた。

これらのことから、自分の思いが相手に伝わったり、相手の気持ちも理解できたりして良い関係を築くためにも必要だと考える。そのときには、お互いのことを尊重することとともに、相手の思いをすぐ否定するのではなく、一度聞いてみることで幸せな社会を作っていくために大切なことだと思う。

自分のことを愛して生きる

《中学生の部 入選》

観音中学校三年 羽場 葵

自分らしく幸せに生きるということは、自分のことを愛して生きることだと思う。「自分らしく」生きるなら、自分が好きなこと、やりたいことをして生きればいい。そうできれば幸せにもなれるだろう。でも、人生は思い通りにいかない。

私の父は、中学生の頃から、ずっとサッカー部に所属していて、今も社会人サッカーを趣味として続けている。父の好きなことをきかれたら、即答で「サッカー」という。しかし、父はサッカー選手ではなく、教員の道を選んだ。自分が好きなことを仕事にできる人は、一握りしかない。でも、父を不幸だと言う人はいない。父は、幸せそうに生きている。きつと、サッカーを仕事にできなくても今の仕事をしている自分のことをちゃんと好きだから、幸せなのだと思う。

結局、自分の今の姿を好きになって生きていけば、幸せは手に入るのだ。自分を愛せるのは自分しかない。私も、どんなときも自分を愛して生きる人になって、幸せになりたい。

ポジティブシンキング

《中学生の部 入選》

安佐中学校三年 佐藤 瑚子

みなさんには短所や欠点がありますか。私には「すぐ飽きる」という短所があります。例えば、好きな本のシリーズがあっても、時間が過ぎれば興味がなくなつて続編を見たいと思わなくなつたりするなどです。

私は長年、飽きないようにするにはどうすればよいかについて考えていましたが、それは自分を曲げてしまつていゝのではないかと考えるようになってきました。短所も含めて自分らしさならば、それも大事にしなくては思つたのです。

それから私は見方を変え、「すぐ飽きる」ではなく「色々な分野を経験できる」と考えるようにしました。飽きれば別の分野にも手を伸ばすので、多様な分野を経験すれば、自分の将来の選択肢も広がります。

私は自分らしく幸せに生きるためには短所も受け入れていくと、人生の選択肢が広がつてよいと思います。皆さんの短所も見方を変えれば長所になるかもしれませぬ。ぜひ向き合つて考えてみてください。そうすれば自分らしさの出せる幸せな未来が拓けるはずです。

自分らしさを表現するために

《中学生の部 入選》

安西中学校三年 中川 希美

私の考える自分らしく幸せに生きるとは、自分に合った環境で、自分の個性を堂々と表現することができる、ということだと思います。

そう思うのは、自分らしさを表現できる環境があつてこそ、自分のしたいことを思いきりできるからです。私は小さい頃からピアノを習っており、今も楽しく続けています。これは自分らしく、やりたいことをして幸せに生きていると言えます。今私がピアノで自分らしさを表現できているのは、親や先生、さらには応援してくれる友達のお陰だと思えます。周りの人の支えがあり、私が自分らしさを表現できる環境をつくってくれてくれるから、私は自分らしく幸せに生きていると思えます。みんなが幸せに生きていける社会にするために大切なことは、その人が自分らしく生きていける環境をみんなで作っていくことだと思います。日常でも、友達が努力しているのを応援したり、上手くいかなくても認め合ったりすることで環境はつくれます。みんなが自分らしさを表現できる環境を、みんなで作っていききたいです。

大切なこと

《中学生の部 入選》

高取北中学校三年 福井 杏菜

自分らしく幸せに生きるために私は二つのことが大切だと思っています。

一つは誰かと自分を比較しないことです。私には得意なことや人一倍優れていることはありません。私よりも優れている人が大勢います。だからこそ周りの人と自分を比べたりせずいつも昔の自分と比較するようにしています。それは今できていることは、過去の自分にはできていないことだったのだから今の自分にできていないことも未来の自分ならできている自信を与えてくれます。

二つ目は自分以外の人の気持ちをよく考えて発言・行動することです。このことを伝えると相手はどう思うだろう、この行動は相手にどのような影響があるだろうということを私はいつも少し考えるようにしています。

この二つのことは誰にでも納得できるものではないと思います。それは一人一人価値観が異なっているから何もおかしなことではないと思います。私はこの二つのことを大切にすることで自分らしく幸せに生きることができると 생각합니다。

自分について考える

《中学生の部 入選》

可部中学校三年 佐々木 絆奈

幸せに生きるためにはどうしたらいいでしょうか。私はストレスをなくすことだと思います。ストレスの原因は約九割が人間関係と言われていて、現代の私たちは相手中心の生活ばかりになっていると思います。

ストレスをなくすためには、一人の時間を持つことが大切だと感じます。スマートフォンでの見えないつながりを意識して生活してしまうことで自分らしさを見失ってしまいます。一人の時間を持ち、自分が本当にやりたいことを実行してみる。自分自身を取り戻すことができます。

私たちは受験生で進路に悩む時期となりました。自分らしく幸せに生きられる進路を選択するために、自分の好きな事、嫌いな事を理解する。自分の考えを持つ。人にまどわされず、まずは自分で考えてみるのが大切だと思います。

一人一人が自分のことを理解することで相手の気持ちも考えられるようになります。そうすることでみんなが自分らしく幸せに生きられる社会になるのではないかと思います。

現代社会における多様性

《中学生の部 入選》

可部中学校三年 生徒

私は、テーマである「自分らしく幸せに生きるということ」について、現代社会における多様性とまわりの人の目に着目して考えました。

最近になってメディアでも大きく取りあげられるようになった多様性。身近なもので例えるならば性別や価値観などがあります。他にも宗教や人種、国籍などもあります。幅広いジャンルに用いられている多様性が認められるようになった現代。なぜここまで改善されてきた社会でも生きづらい人が多く現れるのでしょうか。私はその理由を無関係の人々の声だと考えます。多様性が認められつつある現代、多くの人が自分らしさを追求し個性を認め合う社会。多くの人がそれぞれの人生を彩っていく今、他者を馬鹿にする、笑いものにするなどの一時的な遊びに潰されてしまうのだと思います。

お互いを認め合い理解すること。それこそがテーマに対する私の答えであり、発展を続ける社会の課題だと考えました。私は、誰もが幸せでいられる未来を願っています。

自分らしく生きる

《中学生の部 入選》

生徒

私は、「自分らしく幸せに生きていく」ためにこれからしたいことがあります。

ひとつ目は、自分のできることの限界を理解し、自分のペースで過ごしていくことです。私は、今は病気によって走ることも松葉杖なしで長い距離も歩けません。最初の頃は、外で友達とサッカーや野球をしたいと思っていたし、部活動をしている人を見ると楽しそうだとوراやましく思っていました。でも、どう頑張っても今できないことは、他の人と比べても仕方がないと思うようになりました。今は自分ができるような楽しみを見つけていきたいと思いい、将棋を友達としています。病気にならないければわからない楽しみだと感じ、自分らしくいることの大切さがわかりました。

ふたつ目は、挑戦していくことです。自分ができないと思っていることでも、挑戦したらできたり、できないと分かったら後悔はしません。あのときやっていれなかったことがないようにしていきたいです。

私は、自分らしく生きるために、挑戦して自分を理解することをがんばりたいです。